

重点業種別の対策

製造業（死亡者数 対前年同期比12.3%増、死傷者数 同4.3%増）
※数字は、平成26年1月～6月末の速報値

- 機械等による「はさまれ・巻き込まれ」災害が大幅に増加（死亡42%、死傷5%増）
- 経験年数1年未満の労働者の災害が大幅に増加（9%増）
- 製造業の就業者は増加傾向



- 労働災害が多発する食料品製造業について、「はさまれ・巻き込まれ」、「切れ・こすれ」災害を発生させた事業場に対し、自主点検の実施の要請
- 業界団体等への自主点検・対策の徹底の要請
- 業界団体等への新規雇入時教育の徹底の要請
- 暑熱時期の熱中症予防対策の徹底
- 自主点検の点検結果等を踏まえた局署による指導の実施

建設業（死亡者数 対前年同期比28.2%増、死傷者数 同4.0%増）
※数字は、平成26年1月～6月末の速報値

- 建設需要が引き続き高水準
- 鉄筋工、型枠工などの建設技能労働者の需給状況が逼迫
- 安全衛生管理活動が低調になっていることが懸念
- 「墜落・転落」及び「はさまれ・巻き込まれ」災害による死亡者数が大幅増加



- 局・署における「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」災害に係る点検・対策を重点としたパトロールの実施
- 建災防、建設関係団体への「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」災害に係る点検・対策の徹底の要請（全国大会におけるパンフレット配布による周知啓発、支部におけるパトロールの実施等）
- 暑熱時期の熱中症予防対策の徹底

陸上貨物運送事業（死亡者数 対前年同期比61.8%増、死傷者数 同5.1%増）
※数字は、平成26年1月～6月末の速報値

- 死傷者数は平成21年以降、**4年連続増加**。本年（上半期）も増加傾向。
- 死傷災害は「墜落・転落」が最も多く（29.7%）かつ増加（5.6%増）。
- 特に**荷積み、荷下ろし時**のトラックからの「墜落」が最も多い。
- 死亡は、交通事故が最も多い。



- **トラックからの「墜落」の防止**に係る**集中的な周知啓発**を業界団体等に要請
- 災害発生事業場等に対し、「荷役作業の安全対策ガイドライン」に基づく実施状況等に係る**自主点検**の実施の要請
- **荷主対策**として、**大規模商業施設等**に対し、ガイドラインに基づく荷主の取組手法の周知

第三次産業（小売業（死傷者数 対前年同期比7.8%増）
社会福祉施設（死傷者数 同4.5%増）
飲食店（死傷者数 同6.2%増）

※数字は、平成26年1月～6月末の速報値

- 第12次労働災害防止計画の重点業種である**小売業、社会福祉施設及び飲食店**のいずれも、死傷者数が**増加**。
- 特に社会福祉施設などでは、労働者数の増加や、高年齢化が顕著。
- 「転倒」や「無理な動作」による腰痛など、生命に関わる度合いの比較的小さい災害が多く、事業者、労働者とも**労働災害に対する意識が不十分**。



- **安全推進者の配置及び職場での安全活動の活性化**について行政による周知・指導
- 上記事項を関係団体に対して要請
- 社会福祉施設については、**都道府県や社会福祉団体とも連携**
- **社会福祉施設に対して「職場における腰痛予防対策指針」の研修会を実施**